

C. Y.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が留学を目指した理由は中学校二年生の時のホームステイ体験が大きく影響しています。中学二年生の時のホームステイはたった 1 ヶ月間でしたが異国の地でホストファミリーのもとで新しい文化を吸収しとても充実した日々だったことがずっと思い出に残っていたからです。次は 1 ヶ月という短い期間ではなくもっと現地の生活に溶け込める期間留学したいと思ったので同女のプログラムとマッチしました。また中学生の頃のホームステイで心残りだったこともたくさんあったのでリベンジとしてこの留学を目指しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学までの間は TOEIC の問題集を解いたり TOEIC 用の単語集をしました。
現地で使えるようなカジュアルなフレーズを映画で見たり YouTube をみたりして書き出しました。

③ 現地到着後

空港からの移動はホストファミリーが車で迎えにきてくれたので一緒に家まで行きました。オリエンテーションの日は学校まで私がこれから使うルートのバスを使い大学まで行きました。初日なのでホストマザーも一緒に連れて行ってくれました。学校から大学まではバスで 30 分くらいでした。

④ 語学研修機関

語学研修機関は大学内にあったのでとてもいい環境でした。隣の教室では現地の学生たちが授業をしていたりするので英語に触れる機会も増えよかったです。
先生は人により教えるレベルにかなり差があると思いました。とても熱心で放課後もたくさん質問を受け付けてくれる先生やプラスアルファで課題を出してくれる先生もいらっしゃいました。中には期間限定で雇われている先生でプログラムの内容を理解していないのではないかなと思うような先生もいらっしゃいました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私は放課後のエクステンジランゲージプログラムに参加していました。日本に興味のある現地の大学の学生達と日本人留学生が参加し、日本語を話す時間と英語を話す時間と区切りお互いの言語力向上につながるような内容でした。

⑥ 現地での住まいについて

私はホストファミリーの家にホームステイしていました。通学距離はバスで 30 分くらいでした。冬の寒い日はホストファミリーがバス停まで送ってくれてました。帰りは寒い日はホストファミリーが大学まで迎えに来てくれてました。食事は合わないものもありましたがフルーツやヨーグルトなど私の好きなものを買ってくれてたので助かりました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

クリスマスの休暇中は家族とクリスマスパーティーをして教会に行ったりして過ごしました。年末年始は友達と 1 週間くらい NY に滞在し NY カウントダウンをしました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

私が留学中最も思い出に残っていることは、ある特定のイベントとかではなくホストファミリーと夜過ごした時間です。私のホストファミリーはパパ、ママ、5 歳の女の子だったんですが夜ご飯の後よくみんなでボードゲームをしたり映画を見たりしました。その後寝る前にママに課題でわからないことなどを聞いてついでに一日の出来事や日本のことカナダのことなど話をした時間が私にとってかけがいのない思い出の時間だと思います。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

私が留学中辛かったことは親知らずが原因で歯が痛くなったことです。日本で検診を受けたときには抜いていなくても大丈夫だろうと歯医者さんに言われたのですが慣れない環境での生活などといろいろな要因が重なり歯が痛みました。また私が歯が痛くなったのがホリデーシーズンだったので病院がやっていなかったり、ステイしていたウィニペグは田舎だったからか日本で加入していた緊急の時対応してくれる電話サービスが役にたはず困りました。

③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

私が驚いたのは私が思っていた以上にカナダでは家族を大切にしていることです。日本では祝日もサービス業の人たちは働くのが当たり前だと思いますがカナダではみんなが家族との時間を大切にするために殆どすべての人が仕事を休み家族と過ごしていたことです。またホームレスの人に優しいので驚きました。日本では殆どの人が見てみぬふりをすると思います。しかしウィニペグではお金を求められると渡したり温かいのみのものを自らあげたりと日本では見たことない光景に驚きました。

III. 留学志望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役立ったもの

日本から持って行って役に立ったものはパソコンです。授業のパワポを作成する際に役に立ちました。カイロも役立ちました。カナダでも手に入るようですが日本のメーカーの製品の方が質が良かったです。

② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

やはり現地で暮らしたことにより日本で英語学習をするよりはるかに英語を聞くことに慣れることができ実践的に英語を使うことができたので良かったです。

③ これから留学を考えている方にアドバイス

何事も取り組むのに早くて悪いことはないのですと決めたらなんでもはやめに取り組む
といいと思います。

IV.将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

私の将来の夢は航空業界で働くことなのでそのために留学で得た成果を維持し続けるとと
もに TOEIC のスコアアップのため勉強していきたいです。

V.写真



ホストファミリーとクリスマスパレード

M.I.（英語英文学科・2年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は、中学のときに2週間ほど海外に行ったことがきっかけで、海外に興味を持ち、大学では絶対に留学に行こうと決めていました。最初は長期の留学を希望していたので、1年間の協定留学を希望していました。しかし、今までの私は英文科にいてもかかわらず、英語力が本当にありませんでした。TOEIC や TOEFL の点数を見るたびに、自分の意識の低さや英語力の無さを痛感して、嫌になって、留学も諦めかけていました。そんなときにこのセメスター留学を知り、とにかく今までの自分を変えたいと思い、またすごくいいチャンスだと思ったので応募しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

留学決定から出発までは、飛行機のチケットなどは生協で手続きをしてもらい、後は国際課の方のサポートを受けながら、様々な準備をしていきました。勉強の方は、とにかく英語を耳に慣らそうと思い、毎日リスニングをしていました。授業などの文法を聞くこともあれば、洋楽や洋画といったようなものを見たり聞いたりしていました。後は、語彙力の向上のために毎日決まった数の英単語を覚えるようにしました。

③ 現地到着後

私は、関西空港からバンクーバー空港を経由してウィニペグに着きました。便に不具合も無かったので、遅れることもなく、予定通りに空港に着きました。空港では、ホストマザーが待っていてくれ、車で30分程かけて、ホストファミリー先に移動しました。学校初日は、ホストマザーが私の通う大学で働いてこともあり、バスで道を教えてもらいながら一緒に学校に向かいました。ホストマザーが一緒だったので、広いキャンパスでも迷うことなく目的地に着きました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

施設については、大学のキャンパスがとにかく広くて、最初のころは何度も迷いました。しかし、こちらの方は皆親切な方なので、道を聞くとやさしく教えてくれます。学校では IEP(Intensive English Program)というプログラムで授業を受けていました。クラスは留学前に受ける Placement Test で200～700までのレベルに振り分けられます。大学内には、ブックストアやカフェ、コンビニや郵便局など揃っており、とても充実しています。IEPのスタッフも皆本当に優しく、フレンドリーでした。

◆ 授業内容、課題、試験

授業内容については、最初のころの内容は基礎的な文法などで、高校のときの復習をしているような感じでした。ただ、日本と違ってグループワークやディスカッションが多く、また会話を交えて授業を進めてくれたのでアットホームな感じでした。クラスのレベルが上がるにつれて、プレゼンやエッセイを行う授業も増えます。この二つは、私にとって、とても大変だったのですがやりがいを感じました。テストは週に一度小テスト、毎月月末に中間・期末テストがあり、2カ月おきにクラスのレベルテストがあります。小テスト以外は、パソコンで行います。授業をしっかり受けて復習していれば、順調にクラスは上がっていくと思います。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

水曜日に Conversation Café といって皆でカードゲームや会話をしたり、木曜日はバスケットなどのスポーツをしたりすることが出来ます。毎週末にも何かしらのアクティビティが行われ、動物園やスケート、アイスホッケーの観戦など色々な行事を楽しめます。そこでは、IEP の人と交流する機会が増えるので仲良くなれるきっかけになると思います。

⑥ 現地での住まいについて

ホームステイ先では、ホストマザーと私の二人暮らしでした。学校からは、バスで 20 分ぐらいの距離で、バスの本数も多かったので、交通の便ではほかの人に比べて恵まれていたと思います。食事は平日の朝と夜は準備してくれましたが、昼食は前日の夜に自分で準備をして持って行きました。マザーは料理が得意だったので、毎日おいしい料理やお菓子をふるまってくれました。土日の食事は自分で作る決まりだったので、朝はシリアルで済ませ、お昼や夜は友だちとご飯に出かけたり、家にある食材で作ったりしていました。お風呂や帰宅の時間の制限はありませんでしたが、夕飯の時間に間に合わない場合はメールで連絡していました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

12 月の最終試験が終わった後に 2 週間ほどの休暇があり、年明けに友達とニューヨークに行きました。ニューヨークは憧れの場所だったので、テレビで見るような建物や街並みを実際に目の前にし、本場のブロードウェイを拝見し、本当に夢のような時間を過ごしました。旅費や宿泊代も日本から行くのに比べて本当に安く行けることが出来ました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

留学中で楽しかったことは、韓国の友達の家で料理をふるまってもらったことです。みんなで、ゲームをしたりホラー映画を見たり、韓国料理を教えてもらったりとすごく楽しい時間を過ごしました。思い出に残っていることは、IEP のアクティビティで -40°C の中外で遊んだことです。本当に顔が凍って痛いぐらいだったけど、外ではしゃいでいたのが印象に残っています。後は、ホストマザーと過ごす時間です。二人とも映画が好きだったのでほぼ毎日一緒に映画を見て、それについて話し合っていました。こういう何気ない毎日が本当に楽しかったと今では思います。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

私は、ホストマザーとの関係です。始めのころは、聞き取りもうまくできないし、その家のルールもちゃんと分かっていなかったの、毎回注意をされるたびに、悲しくて辛くなりました。自分の言いたいことや思いも伝えられないし、お互い我慢してストレスがたまり、マザーとの関係も正直あまりよくありませんでした。だけど、一度二人でちゃんと話す時間を作って、お互いの気持ちを本音で何時間も話しました。それからは、お互いが理解しあい、言いたいことを言い合い、本当の家族のような良い関係を作れました。また、私が帰国するときには、家の鍵をくれ、いつでも帰ってきなさいと言ってくれたことが、本当にうれしくて、このホストマザーと出会えてよかったと心から思いました。

③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

こちらの人は、なんでもおおざっぱです。バスが遅れることはしょっちゅうだったし、料理を頼んでも中々来なくて忘れられていることも何度もありました。映画館もそこら中にポップコーンが散らばっていたりと、改めて日本のホスピタリティのすごさを感じました。後は、皆がとてもフレンドリーだったことです。バスの中で隣になった人や、店員さんなど、気さくに話しかけてくれました。日本に興味を持ってくれる人が多かったのも嬉しかったです。こういった人と人との間に壁を作らないという文化が素敵だなあと感じました。

Ⅲ. 留学志望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役立ったもの

パソコンは必需品です。日本のレポートや学校の課題もパソコンが必要になります。ウィニペグはとても寒い地域なので、秋学期に行く人は日本から何枚かヒートテックをもっていくことをお勧めします。後は、薬です。私は生活環境が変わると体調を崩しやすいので、日本からたくさん持っていかったので、急にお腹を壊したりと体調を崩したときに、役立ちました。

② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力がかなり上がったと思います。毎日英語を聞いていると、耳が慣れてきて、スムーズに相手の言っていることが聞き取れるようになりました。後は、コミュニケーション能力です。あちらの人は皆フレンドリーなので自分も自然に明るくなり、積極的になることが出来ました。今までは英語を話すことに抵抗があり、間違えていたらどうしようとか考えてしまっていたのですが、この留学のおかげで自分の英語に自信が持てるようになりました。間違っていたらどうしようじゃなくて、相手に自分の気持ちを伝えることが大事なんだと思うようになりました。そのおかげで、たくさんの人と素晴らしい関係を築くことが出来ました。そういう面で英語力以上に人として成長し強くなれたと思っています。

③ これから留学を考えている方にアドバイス

私はこの留学で、色々な人と出会い、色々な経験をし、自分自身すごく成長しました。英語力もですが、それ以上に得たものがたくさんあります。5カ月というのは、長く感じるかもしれませんが、本当に一瞬です。悔いのないように、なんでも挑戦してほしいです。何でも待っているだけでは、もったいないです。自分がちょっとでも一歩踏み出すことで、この留學生活が大きく変わると思います。もちろん、慣れない生活でましてや海外ということで苦労することはあると思います。でもそれ以上に楽しいことが待っているし、辛いことがあっても頑張って前向きに考え、楽しむことで充実した留學生活を送れると思います。英語力を上げるのなら、単語帳や参考書を見るよりも、とにかく友だちやホストファミリーとたくさん話すことをお勧めします。皆さんにとって、この留學生活が充実したものになることを願っています。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来の夢は、まだはっきりとは決まっていないのですが、やはり英語を活かして、外国の方と関われる仕事に就きたいと思っています。そのためにも、今は TOEIC の点数の向上のために勉強を頑張っています。最終的には、海外に移住し暮らしたいと思っています。

V. 写真



帰国の前日にホストマザーとペットのセバスチャンと三人で撮った写真です。



アクティビティで -40°C の中、外で遊んだ時の写真です。経験したことがないぐらい寒かったけど、なんだか楽しかったです。

Y. J. (英語英文学科・2年次生)

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

高校2年生の夏にカナダへ二週間の語学研修に参加しました。期間は短かったのですが、この留学経験が私を、もっと長期で日本とは違う文化で生活したい、日常から英語をコミュニケーションのツールとして使用し、さまざまな人と出会いたい、と思えるきっかけになりました。本学に進学した理由も、留学制度が充実している、というのがひとつにあります。

② 留学決定から出発までの準備期間

まずは、英語ばかりの環境に慣れるために日頃から洋楽を聴くなど、毎日英語に触れるようにしていました。学習面では高校の頃に使用していた文法教材の復習をしました。また、カナダは5ヶ月間だった為、VISAの申請は必要ないので余裕を持って留学までの期間を過ごせたと思います。

③ 現地到着後

空港からの移動手段としては、ホストファザーが空港まで迎えに来てくださっていたので、車で自宅へ向かいました。私はオリエンテーション二日前に到着したので学校が始まる前に、学校までの行き方、自宅周辺を案内して下さいました。オリエンテーション当日は、先生やIEPのアクティビティリーダーの方による、活動内容の紹介、学校案内がありました。

④ 語学研修機関

マニトバ大学は校内に何台ものバスが通っているくらい敷地面積が広くて、最初のうちは目的の教室にたどり着くまでに時間は掛かりましたが、ほとんどの校舎が地下通路で繋がっているので、寒さには問題はありません。大学は大きいだけあって、設備がとても充実していました。例えば、校内には会員制ですがジムがあり、午前中に授業が終わった日の放課後に通うなどして、時間を有効的に使えていたと思います。IEPの授業内容としては、クラスによって異なりますが、私の場合はレベルが上がるにつれて、ロールプレイやプレゼンテーション、ディスカッションをする機会が多くなりました。課題の量も先生やクラスによって異なりますが、ほぼ毎日あったので、帰宅する前に、図書館に寄って勉強して帰るようにしていました。試験は1カ月に一度 mid term と final exam が交互にありました。これらのテストと授業態度や assignment の平均が60点を超えたら次のレベルに上がることができました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

IEPプログラムはアクティビティが豊富でした。水曜日には conversation café (様々な国の方々とゲームをしたりお菓子を食べながら交流できるアクティビティ)、木曜日には sport activity (バスケットボールやバドミントンなどのスポーツが出来るアクティビティ) があ

りました。週末には、ウィニペグの街をスクールバスに乗って散策したり、毎年二月に行われるフランスのお祭りにも参加できました。その他にもウィニペグの冬でしか体験できないようなアクティビティが沢山あるので、積極的に参加してみてください。

⑥ 現地ででの住まいについて

私のホストファミリーは子供が3人の5人家族と、ホストファザーの弟と一緒に生活していたので賑やかで明るい家庭でした。基本的に平日の晩御飯と休日は、ホストマザーが食事を用意して下さっていました。家にある食材は好きなように使ってもいいという事だったので、昼食にはサンドイッチを作ったり、晩御飯の残りを持っていくなどしていました。大学までの通学距離はバス二本使ってほしい40分程で、バスが遅れるなどして、乗り継ぎがうまくいかない時は約一時間掛かりました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

クリスマスはホストファミリーとホームパーティーをして一緒に過ごしたり、二週間程の休みがあったのでニューヨークへ観光に行きました。アメリカ大統領選挙が終わってそれほど時間が経っていなかったもので、騒動などに巻き込まれないか不安もありましたが、何の問題もなく、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

他国の友達、家族ができたことです。授業でたまたま席が隣になり、ペアワークがきっかけでランチを一緒に食べるようになったり、休日と一緒に遊んだり、本当に充実した学校生活を送ることができました。また、家族に関しては、私がなかなか環境に慣れずにいた時、ホストファミリーが夕食の時間に「私たちは家族だから、何でも頼って！」と言って下さったのが心に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

ウィニペグの交通機関です。ウィニペグは小さな町なので電車や地下鉄は通っておらず、基本的にバスを使って出かけます。日本のように定刻通りにバスが来る時が非常に少なく、バスの電子時刻表はいつも due の文字が表示されています。酷い時には、バスがなんの前触れもなく運行されなくなっていたりして、40分ほど待った時もありました。交通機関の遅れに関しては、解決策がなかったので苦労しました。

③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

カナダのほとんどの家庭は、夕方には仕事が終わって、夕食は家族揃って食べるという習慣に驚きました。日本だと休日に家族が揃うことが多いと思いますが、平日は仕事や残業でなかなか難しい環境だと思います。ですが、カナダでの家庭は、家族と過ごす時間が本当に多く、父親母親関係なく育児をしている姿を見て温かい気持ちになりました。

Ⅲ.留学志望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役立ったもの

やはりレポートを作成する為にもパソコンは必要です。また、プレゼンテーションのデータなどを持ち歩けるように USB も持っていくと便利だと思います。また、ホストファミリーや友達にお土産として、日本のお菓子や文房具などを持っていくと良いと思います。日本の文化を紹介出来たり、会話が広がるきっかけにもなります。

② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学する前までは、ネイティブスピーカーとは全く異なる自分の発音に自信が持てずに、人前で英語を話すのに少し抵抗がありました。ですが、たとえ発音が違っていても、人前で生き生きと意見を話すクラスメイトや、プレゼンテーションなどで自分の意見を話す機会が多かった環境のおかげで、英語を話す自分に自信が持てるようになりました。また、いつも停滞していた TOEIC のスコアも上げることが出来たので、五カ月間の経験は価値のあるものだと思えて実感できました。

③ これから留学を考えている方にアドバイス

留学で培った経験は、必ず自分の強みになります。言葉の壁や文化の違いに戸惑うことがあるかもしれませんが、それらを乗り越えて日本に帰って来る頃には、将来の夢、自分のやりたい事、これからの目標が見えてくるはずです。学生の中に色々な経験をして下さい！

Ⅳ.将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来の夢は英語を使った仕事をしたいと考えているので、まずは英検の資格取得や TOEIC の点数を伸ばして将来の選択肢を広げる事を目標にしています。また、日本に帰ってからでも英語を話す機会を出来るだけ作るように、大学内の課外レッスンなども活用していきたいと考えています。

V.写真



同じクラスで仲良くなった、台湾の友達です。お揃いのマニトバ大学のアイスホッケーチームのトレーナーを着ました。場所は、IEP のアクティビティで訪れたウィニペグの歴史的な legislative building の中で撮影したものです。一ヶ月という短い期間でしたが、今でも連絡を取っています。



ホストファミリーの一歳の子供です。毎日のように部屋に遊びに来てくれます。ホストマザーによく子守りのお手伝いを任されていました。一緒に遊ぶことで、課題に追われたり、一日疲れ切った私にとっては、本当に束の間の癒しでした。

H. K.（英語英文学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

入学前から在学中に絶対留学すると決めていました。しかし協定留学には TOEFL のスコアが足りなかったため、二年生の春休みにセメスター語学留学に申し込むことを決心しました。私は将来英語を使用する職業に就きたいと思っており、そのためにもこの留学を決心しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

私の目標はネイティブと会話を成り立たせることだったので、まずスピーキングとリスニングに焦点をあてました。そして、今までしていたような TOEFL や TOEIC の問題集を解くことをやめました。主にしたことは英作文の本を買って、その例文を覚えていくことです。スピーキングスキルが上がったからです。また 1 年生のころの教科書を使って、時間がある時はシャドーウィングをしていました。夏休みはインターネットで英会話のレッスンを毎日受けていました。あと私は海外に行ったことがなく、パスポートを持っていなかったため、留学に行けることが決まってすぐに作りました。

③ 現地到着後

空港についてゲートを出るとすぐにホストファミリーが私のネームボードを持って待っていてくれました。簡単な挨拶を済ませすぐに車に乗り、ホームステイ先まで移動しました。私は到着したのが夕方だったので、その日はすぐに寝ました。次の日はマザーと必要なものを買いに出かけました。その二日後がオリエンテーションでした。10 月スタートの学生は少なく、同女生と七人くらいの生徒だけでした。そのオリエンテーションで学校に関することや授業に関すること、またクラスも教えてもらいました。

④ 語学研修機関

私たちの教室はマニトバ大学の中にあり、正規の学生と同じ施設で授業を受けていました。学校は驚くほど広く、移動が大変に感じることもありますが、すべて地下でつながっているため寒い冬場も校内にいれば寒くありませんでした。授業は二か月ごとに大きなテストがあり、それに受かると自然に上のクラスに上がれるというシステムでした。初めは文法やスピーキングの授業で簡単な内容でした。次のクラスになるとレベルが上がり、スピーキングではグループで意見を言うことが求められます。またより上に行くと、プレゼンの授業があり、週一程度でプレゼンがありそれが一番苦しかったです。最後のクラスはライティングの授業でもエッセイの課題が毎週ありました。テストは大きいものが二か月に一回ですが中間テストをその間に挟むので、毎月あります。また初めのクラスでは毎週小テストがある授業もありましたが、内容は勉強していればとけるレベルでした。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

ランゲージエクスチェンジという会があり、そこには日本語を学びたいネイティブの人がたくさんいて、交流することができました。グループにわかれて自由に会話ができ、内容は前半 45 分日本語タイム、後半 45 分英語タイムがあったのでお互いが楽しく言語を学ぶことができ、とてもいい機会だったと思います。

また毎週 IEP のアクティビティーがあり、様々な場所に行くことができました。美術館やスケート場、公園やボーリングなど様々な種類のアクティビティーがありました。

⑥ 現地での住まいについて

私はホームステイだったのですが家族構成が 70 代のファザーとマザーだけでした。またクラスがおなじだった韓国人の女の子も同じ家で暮らしていました。宿題も同じなので毎日本当の姉妹のように一緒に勉強したり、遊びに行ったりしていました。私の部屋は広くて、ダブルベッドがおいてあったのでホテルみたいでした。暖房もあり、家にいれば快適でした。

ファミリーはイタリア人なので食事はパスタやピザなど、イタリアン料理が多かったです。マザーは料理が好きな人だったので、イタリアン料理だけでなく様々な種類の料理を食べることができました。白米が出ることも多かったです。家から学校まではバスで 10 分ほどでした。乗り換えの必要もなく、すごく恵まれた環境だったと思います。

⑦ 長期休暇の過ごし方

冬休みが二週間ほどあったので同女の友達二人とニューヨークに行きました。1 月 3 日から二泊三日で行きました。ブロードウェイやタイムズスクエア、ブルックリン橋などいろいろ行くことができました。日本では絶対できない体験をすることができて、本当に楽しかったです。残りの日はファミリーと買い物に行ったり、同じ家の韓国の子と映画に行ったりしました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も印象に残っていること

楽しかったのはホストファミリーとの時間です。私のファミリーは本当に優しく、宿題でわからないことがあれば教えてくれたり、悩んでいたら相談に乗ったりしてくれました。一言家事を手伝うと声をかけると「やさしいね、ありがとう」といつも言ってくれていました。最後の週に私が日本食を作った時にとっても喜んで食べてくれたことは本当にうれしかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

最後一か月のプレゼンテーションが一番つらかったです。毎週あり、内容も避妊や核兵器などのとてもディープなものでした。ただ意見を言うだけでなく、毎回パワーポイントでスライドを作っていないといけないのでかなり時間も費やしたと思います。いくら練習しても前に立つと忘れてしまうこともあり、そこでただ暗記するだけではいけないという

ことを身をもって学びました。その授業のおかげでプレゼンに慣れることができました。

③ 文化、習慣などの違いで驚いたこと

バスから降りるとき日本ではあまりいませんが、ウィニペグではほぼ全員と言っていいほど Thank you と運転手に言っていました。そして運転手が Have a nice day とよく言います。すごく些細なことですがこれは本当に気持ちがいいです。また校内で地図を見ていると話しかけてくれる人が何人もいて道を教えてくれました。ウィニペグでは優しい人が本当にたくさんいます。

Ⅲ.留学志望者へのアドバイス

① 日本から持って行って特に役立ったもの

パソコンは絶対に持っていったほうがいいと思います。上で述べたように、毎週プレゼンがあったのですが、そのたびにパソコンでパワーポイントを作っていました。スマートフォンでも作れないことはないのですが、やはりパソコンの機能の方が断然よかったです。また私は行く前に使用していた英作文の本と単語集も持っていきました。これは自主的にしていたのですが、向こうでも継続していたので英語の上達になっていたと思います。あと電子辞書も授業中わからない単語を調べたりしていたので便利でした。

② 語学力の向上、留学の成果、留学前と後で変わったこと

行く前は自分の言いたいことがまったく言えず英語を話すことが怖いと思っていました。でも、この留学を通して自信が付きました。ボキャブラリーやフレーズも今まででは絶対でてこなかったようなことも少しずつ覚えていきました。そして何より英語を使うことが楽しいと思えるようになりました。間違えてもいいから自分の言いたいことを言おうとする姿勢になったと思います。帰国してすぐ外国人に道を聞かれたとき、すらすら案内できたのは本当にうれしかったし、成果を感じることができました。

③ これから留学を考えている方にアドバイス

もし留学行くか行かないかで迷っているなら、私はやはり行くべきだと思います。留学できる機会なんて普通学生時代しかないし、日本では絶対にできない経験がたくさんできます。

またこのセメスター語学留学は休学せずに単位ももらえるのがすごく魅力的だと思います。留学を通して様々な人と出会い、視野を広げることもできます。

Ⅳ.将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

私の将来の夢は英語を使う仕事に就くことです。まだ職種は詳しく決まっていないのですが、いまは観光系や旅行会社について調べています。外国人のお客さんを接客することもあると思うので、そういった場面で英語を使えたらなぁと考えています。そのためにこの一年間より英語の勉強に力を入れていきたいです。

V.写真



これはハロウィーンパーティーのときの写真です。みんな仮装したり、ゾンビメイクしたり様々で、本当に面白かったです。ゲームやお菓子も用意されているのでみんなではしゃいでいました。



これは韓国人のルームメイトとランゲージエクスチェンジで出会った同じく韓国人の女の子と焼き肉にいったときのものです。右の子は10年以上カナダにすんでいてほぼネイティブなので彼女と遊ぶことはすごくいい英語の勉強になったと思います。また他国の子と話すことでいろいろなものに関する視野が広くなりました。